

2014.07

二世帯住宅に住む 親世帯と子世帯の交流実態と意識

親世帯と子世帯の同居率は長年低下してきたが、近年「二世帯住宅」が注目を集めている。本レポートでは、二世帯住宅における子育てや家事の実態と意識から、親世帯・子世帯それぞれにとっての二世帯住宅の価値を探った。

■二世帯住宅に住む「親世帯」は、「子世帯」の生活をサポート。

- ・ 親世帯は子世帯の育児や家事を支援しており、孫の成長を見られることを一番のメリットと感じる一方で、生活のペースを乱されたり、経済的負担が増えるデメリットも感じている。
- ・ 子世帯は、育児や家事支援などに対する親世帯への感謝の気持ちは大きいですが、子育てに干渉されることはデメリットと感じている。

■親世帯は、「娘との二世帯」の方が「息子との二世帯」より、 育児などで生活のペースを乱されることが多い。

- ・ 親世帯は、「娘との二世帯」の方が、子世帯の育児・家事支援を活発に行っており、生活のペースを乱されたり、自由に出かけられないことをデメリットと感じる割合も高い。
- ・ 子世帯は、「娘二世帯」の方が、「息子二世帯」より満足度が高い。しかし親世帯は「娘二世帯」「息子二世帯」とも満足度は同じく高い。

■室内で「行き来できる」住宅の方が「行き来できない」住宅より、 子世帯は満足。

- ・ 親世帯は室内から「行き来できない」方が、満足だと思える割合が高い。
- ・ 子世帯は室内から「行き来できる」方が、「育児支援」「親の老後」「経済性」のメリットを感じており、満足だと思える割合が高い。

調査 概要

■定量調査

調査時期：2013年3月

調査方法：インターネット調査

調査対象：一都三県在住 二世帯住宅居住の親世帯と子世帯

回答者数：300名 ※詳細は最終ページを参照